

# ちょっとおじゃまします

太田健太郎先生

太田鍼灸整骨院<大阪府大阪狭山市>



## 機器を活用、鍼に直接。パルス

「治療機器のセミナーは面白いですよ。メーカーの営業はマニュアルから外れた使い方を嫌がる。それなのに、公認のセミナーに呼ばれる講師は、電気を当てながら手技をしたり、理学療法のテクニックを電気刺激で応用したり……」。

楽しみに語る、太田健太郎先生。高校2年生の頃、野球部の活動中に痛めた腰が、鍼治療で劇的に回復したことをきっかけに治療家を志しました。ただ、関西鍼灸短期大学(当時)に入学するまで東洋医学のことは何も知らず、いざ授業を受けてみると「古典を学んだりとか、正直イメージと違いました」と笑います。ただ、鍼灸について学ぶ一方、柔整師課程の友人との交流などを経て、鍼灸業界の学究的な空気を、どこか閉鎖的に感じるように。

「もっと広い視野を持ちたい」と、卒業後すぐ柔整師課程に進学したいといいます。

現在の院を開業したのは平成17年で、柔整師免許取得の約1年半後。50件近い候補地を見て回って決めた立地は、周辺住民の生活の中心で、活気に溢れた場所でした。最初の半年は苦戦

したといいますが、見立て通りそこからぐんと調子を上げ、10年かけて地域に親しまれる院に成長します。ただ、療養費の審査の厳格化や人の流れの変化などの逆風もあり、生き残りの道として見出したのが機械の活用でした。治療院には超音波を中心に様々な治療機器を揃えており、特に自信を持っているのは鍼に直接、ハイボルテージと呼ばれる高電圧の電流を流し、通常よりも深部の組織にアプローチする治療。筋肉の委縮や、膝など関節の痛みなどに特に有効で、人工関節の手術が必要だと言われていた高齢の患者さんがたった3カ月で痛みから解放され、旅行を楽しむようになったほどだとか。機器のセミナーに積極的に参加して情報を集める一方、自身でも、ある機器を用いた全身調整の手法を研究中。近々、実用化予定です。

「競技への早期復帰、旅行、なんでもいいんです。やりたいことのお手伝いをする、そのために少しでも選択肢を増やしたい」——そう力強く語ってくれました。

太田健太郎先生 37歳。平成13年、関西鍼灸短期大学(当時)卒業。同年はり師、きゅう師免許取得。平成16年、関西医療学園専門学校卒業。同年柔道整復師免許取得。平成17年開業。